

# 悪性リンパ腫の標準療法と今後の展開

永井宏和<sup>†</sup>

IRYO Vol. 74 No. 11/12 (467-471) 2020

## 要旨

悪性リンパ腫は造血器系腫瘍で最も頻度が高い疾患である。ホジキンリンパ腫と非ホジキンリンパ腫に大別されるが詳細な病理組織は70種類程度に分類される。主たる病型には標準療法が確立している。多剤併用化学療法を基本とし、ホジキンリンパ腫ではABVD(ドキシソルピシン, プレオマイシン, ビンプラスチン, ダカルバジン)療法, びまん性大細胞型B細胞リンパ腫ではR-CHOP(リツキシマブ, シクロホスファミド, ドキシソルピシン, ビンクリスチン, プレドニゾロン)療法が標準療法として広く用いられ, それぞれ高い治療効果が報告されている。しかし, 再発・難治症例では, いまだ十分に有効な治療法が確立されていない。新たな治療薬の開発は精力的に行われており, 抗体薬, 低分子薬などの分子標的薬の開発が進んでいる。細胞療法も血液分野での開発は進んでおり, 予後の改善が期待されている。

キーワード ホジキンリンパ腫, びまん性大細胞型B細胞リンパ腫, 分子標的薬

## はじめに

悪性リンパ腫は成熟リンパ系細胞の腫瘍の総称である。ホジキンリンパ腫と非ホジキンリンパ腫に分類されてきた。これは、ホジキンリンパ腫の概念が最初に確立し、その他のリンパ系腫瘍をホジキンリンパ腫以外“非ホジキンリンパ腫”としたことによる。ホジキンリンパ腫は5、非ホジキンリンパ腫は60以上の病理組織に分類される。非ホジキンリンパ腫は細胞の表現系からB細胞リンパ腫とT細胞リンパ腫に大別される。がん・登録統計(2018)によると年間の罹患率は、対10万人で男性29.5人(部位別12位)、女性24.5人(部位別10位)となっている。

化学療法, 放射線療法が他がんと比べ有効である。ホジキンリンパ腫, B細胞リンパ腫, T細胞リンパ腫の標準療法と今後の展望について概説する。

## ホジキンリンパ腫の標準療法

ホジキンリンパ腫の治療法は限局期症例と進行期症例で異なる。悪性リンパ腫は他の悪性腫瘍と病期診断のTNM分類とは異なり, Ann-Arbor臨床病期分類(IからIV期, リンパ腫関連の症状の有無でA,Bに細分)を用いる<sup>1)</sup>。ホジキンリンパ腫ではI-II期を限局期症例, III-IV期を進行期症例とする。

限局期症例: ホジキンリンパ腫の基本となる化学

国立病院機構名古屋医療センター †医師  
 著者連絡先: 永井宏和 国立病院機構名古屋医療センター 臨床研究センター  
 〒460-0001 愛知県名古屋市中区三の丸4-1-1

e-mail: nagai.hirokazu.uf@mail.hosp.go.jp

(2020年4月30日受付, 2020年9月11日受理)

Treatment of Malignant Lymphoma, Present and Future Perspective

Hirokazu Nagai, NHO Nagoya Medical Center

(Received Apr. 30, 2020, Accepted Sep. 11, 2020)

Key Words: Hodgkin lymphoma, diffuse large B cell lymphoma, molecular target drug